

令和5年度 第4回 東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月13日（火） 午前9時から午前10時45分まで
- 2 開催場所 東小学校 1階 会議室
- 3 出席委員 小名木 秀雄、高木 邦子、松下 克幸、今中 秀裕、中川 清子、  
中村 将義、大脇 加名、竹山 有希
- 4 欠席委員 杉山 晴康
- 5 学 校 大石 泰三（校長）、杉山 章子（教頭）、  
船越 裕康（CS担当教職員）、原 真衣子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 原 真衣子
- 9 議長の選出  
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、高木委員が本日の議長を務めることを申し出て、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
  - （1）学校関係者評価（「いじめ防止等のための基本的な方針について」含む）
  - （2）来年度の学校運営の基本方針について
  - （3）学校運営協議会の自己評価  
学校運営協議会の取り組みについての振り返り
  - （4）夢育やらまいかCS加算分の報告
- 11 会議記録  
司会のCS担当教職員から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
  - （1）学校関係者評価（「いじめ防止等のための基本的な方針について」含む）  
議長の指示により、校長から別紙資料に基づき学校関係者評価について説明があり、委員からは以下の発言があった。
    - どのくらいのいじめが認定されているのか。（高木委員）
    - 約30件ある。簡単に解消とするのではなく、聞き取りを行い人間関係の深いところまで見て、最低3ヶ月は様子を見ている。校内で毎月「いじめ対策委員会」を開き、様子を共有し、解消か否かを組織的に判断している。半数は解消となっているが、残りはまだ注視しているところである。（教頭）
    - いじめとはどんなものがあるのか。（会長）
    - いじめ見逃し0を目指し、嫌な気持ちになったと子供が訴えたものはいじめとみなしている。定期的に子供達がオンラインでアンケートに答え、その回答をもとに子供達に聞

き取りを行っている。すぐに対応できるのが良いと思う（校長）

- 嫌なことを言われる、物を隠すといったことが多い。直接的に手を出し合うことは少ない。来年の取り組みとしては、児童全員との個別面談の時間をとる予定。タブレットだけではなく、直接聞き取りを行っていく。（教頭）
- 低学年でもあるのか。（松下委員）
- ちょっとしたことで物を隠すようなことがある。軽く取り扱うことなく、小さいながらも大きないじめにつながらないようきちんと対応していくようにしている。（教頭）
- 来年度は、毎月1回の心の天気アンケート、1学期2学期にはいじめオンラインアンケートを行い、いじめの早期発見に努めていく。また、いじめオンラインアンケートともに「聞き取りウィーク」を設定して、児童全員からアンケート結果について聞き取りを行い、今年以上の実態把握に努めていく。（CS担当職員）
- ピア・サポートではどんなことをしているのか。（中村委員）
- 朝の活動や学活として、コミュニケーションスキルを身につけるような活動をしている。こんな場面ではどうしたらいいのか、といったことをみんなで話し合ったりする。各クラスにピア係がいて、イベントや様々なゲームとルールなどを考え、みんなで楽しく過ごせるように活躍していたり、ときにはけんかの仲裁を行ったりすることもある。それぞれの気持ちが対立することで言い合いになったりするので、クラスや学年、学年団の活動でお互いの気持ちを読み取る力をつけていくことを目標に行っている。（教頭）
- 素晴らしい取り組みだと思うので、こんなことをやっているということをもっと保護者や地域の方に見えるようにすると、もっと良い協力を得られると思う。（中村委員）
- 社会的スキルのトレーニングにつながる取り組みであり、仲間同士助け合うことを目指してこんなことをやっていますと説明が必要かもしれない。分かりやすく発信していくと良い。（高木委員）
- 学校はいろんな対応をしてくれているが、学校は楽しいところだという雰囲気を出すことが何より大事だと思う。いじめ対策に神経を使うのではなく、学級で楽しいことを考える、楽しいことをすることで学校へ行きたくなる。保護者から学校への感謝の言葉がたくさん出るような学校になれば、いじめも少なくなる気がする。子供には、困難を乗り越えたり、反発する力や強い心も身につけてほしい。（松下委員）
- 放課後児童会との連携も重要だと思う。子供達がなんでも言いやすい雰囲気作りがとても大切だと思っている。死ね、嫌いだという言葉を書いたりするし、物を隠したりすることもある。中学年くらいになると、隠れていることをやったりするが、相手の痛みが分かるようになってほしい。保護者には事実を伝えるようにしている。子供もさみしかったりすると思うので、気持ちの切り替えをしてあげたい。放課後児童会に行くのが嫌だと感じている子もいるが、先ほどの意見を聞いて、楽しいと思えることをもっと考えていきたいと感じた。（中川委員）
- いじめをする側も子供なりのSOSを出していることがある。いじめをしてしまう子のサポートも必要だと思う。（高木委員）
- もっと体を動かす取り組みをしてほしいとの意見があるが、読書カードだけではなく、なわとびカードや持久走カードもある。体を動かす時間の確保はどのようにしたらいい

のか。(大脇委員)

- 1月は体力作り月間になっていて、全校で持久走に取り組んだ。みんなで外に出て遊んだり、なわとびの動画を流したりしているが、なかなか外に出ない子もいる。(教頭)
- それぞれの児童によるところも大きいので、体育の授業でたくさん体を動かすことを意識して行うようにしていく。(CS担当教職員)
- 幼稚園や低学年での運動は特に大事である。先生方も休み時間に生徒と一緒に積極的に外に出て子供と遊んでいる。先生が外に行くと子供も喜んで外へ行くので、今後も続けていきたい。(校長)
- アンケート結果をみると、教職員と保護者の認識に乖離がある。アンケートの答え方によって乖離が出ているのか、実際に乖離があるのか分からないが、どんなふうに乖離を解消して共通の認識にできると考えているか。(今中委員)
- 見ている場面が違うということが一番大きな違いだと感じている。学校では日々目標を立てて取り組んだりしているが、なかなか家庭での生活に結びつかないこともある。学校便りや懇談会で学校での様子を伝えるようにしている。(校長)
- 懇談会などで、この乖離についてどう思うかということ保護者にも問いかけていたりしてはどうか。(今中委員)
- 落ち着いた子とはどんな子のことをいうのですか。(中村委員)
- 自分の心と体がコントロールでき、安全に生活できる子と考えている。心と体をコントロールし、その場にあった行動ができるようにすることを目指している。(CS担当教職員)
- 落ち着いているとはどんなことなのかと教職員で話し合ったが、走ったりする行動面だけではなく、例えばいつもいらいらしていたりするのとは落ち着いているとは言えないため、心と体のコントロールという表現にした。(教頭)
- いじめと認識されたものは、保護者にも伝えているのか。(竹山委員)
- 関係のある児童の保護者には全員に伝えている。(教頭)
- 本人からの申し出だけでなく、保護者からもしくは他の児童からの情報で問題を把握することも多くある。(CS担当教職員)

## (2) 来年度の学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、全員異議なくこれを承認した。

## (3) 学校運営協議会の自己評価

学校運営協議会の取り組みについての振り返り

- みんな同じ認識を持って協議会に取り組んできたことが分かる。あいさつ運動で大きな声で挨拶をしてくれるととても気持ちがいいので、来年度も続けていきたい。

地元自治会とのつながりが希薄になってきているが、自治会長だけでなく三役くらいの方に参観会などを見てもらい、学校の現状を見てもらうのはどうか。小さな子どもがいる家庭ばかりではないので、年代のギャップがあるように感じる。実際の子ども達の姿をみてもらうことで、もっと学校を身近に感じることができるのではないか。もっと地域を巻き込んで、地域も学校と共通認識を持つことで、みんなで子どもを見ていくようになったら良いと思う。(会長)

- 子どもは、体験して見て触ってみることが一番大事。それは大人でも同じだと思う。働き方改革についてだが、やはり先生方が元気でなければいけないと思う。子どもの教育ももちろん大事だが、先生方の心や体の健康が第一である。(松下委員)

#### (4) 夢育やらまいかCS加算分の報告

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき夢育やらまいかCS加算分について説明があり、全員異議なくこれを承認した。

#### ○ 学校支援コーディネーターからの報告

地域住民も参加したあいさつ運動を始めた。挨拶ができない子もいるが、9割程度の子が挨拶してくれる。こちらの対応も大事なのではないかと感じる。

#### ○ その他

司会から、次回会議は、令和6年5月13日(月)午前9時から東小学校会議室で開催する旨の報告があった。